

10月の果実の見通し

令和4年9月30日現在
山形県東京事務所

品目	区分 主産地	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比見込(%)	5か年平均	前年実績	前年比見込	5か年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
西洋なし類	山形 ほか	483	110%	566	435	安い	366	358	74.1	前年同様、10月上旬より長野産「ラ・フランス」、北海道産「オーロラ」、山形産「メロウリッチ」「コムス梨」が入荷予定。1品種1～2週間程度の入荷となる。10月末より主要アイテムである山形産「ラ・フランス」の販売が始まる。数量が少なかった前年に比べ豊作傾向で平年作を見込む。
日本なし類	栃木 茨城 千葉 福島 ほか	2041	115%	2926	435	安い	350	4	0.2	開花は平年より遅く、前段の品種「幸水」「豊水」は前年より生育が遅い出荷となった。10月の販売は「新高」「にっこり」「南水」は小玉傾向から大玉へ移行となった。精度の高い情報共有が販売のかぎとなる。価格はコロナ前の価格も視野に入れる必要がある場面も考えられる。
ぶどう類	長野 山梨 岡山 ほか	2536	100%	2651	1620	並み～ 安い	1292	145	5.7	山梨産は10月に入りほぼ終了。黒系は岡山産、シャインマスカットは長野、岡山産が中心となる。着色等の生育で出荷が遅れていたが、小房ながらも、10月は前年並みの入荷見込み。9月までは前年と比べ高単価で推移したが、シャインマスカットについては平年並みに落ち着く見通し。貯蔵数量は計画通りであるが、貯蔵物の出荷開始は下旬からとなり相場は平年並みと見る。

10月の果実の見通し

令和4年9月30日現在
山形県東京事務所

品目	区分 主産地	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比見込(%)	5ヵ年平均	前年実績	前年比見込	5ヵ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
かき類	和歌山 奈良 福岡 ほか	7997	110%	8642	305	安い	265	121	1.5	前年に比べ残暑が厳しく、朝晩の気温が低いため着色は良い。生育は順調で肥大状況も良い。和歌山産「刀根早生」は収穫に遅れがあり10月の出荷量は前年に比べ多くなる。奈良産においても上旬にピークとなり新潟産も中旬より始まる。福岡産「早秋柿」が上旬「大秋柿」は下旬から始まる。「早生富有」は山梨産が中旬よりスタート。柿類全体として前年に比べ玉肥大が良く数量は前年を上回る。台風14号の影響もあるが順調な出荷が伺える。
りんご類	青森 長野 ほか	6417	115%	7541	338	安い	301	851	13.3	10月は中生種が始まり、販売アイテムに広がりが出てくる。早生りんごは10月15日頃までの販売予想。各地適度な降雨の影響により玉伸び良く、中生種の玉流れは36玉>32玉>40玉になる見込みである。黄色系は「トキ」中心の出回り。10月中旬以降は「シナノゴールド」も入荷が始まってくる。りんご全体とすれば、前年の天候災害による数量減と比べ、今年は平年並みの出荷量が確保できている。価格も平年並みの推移である。

引用資料:「東京都中央卸売市場における果実の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、果実の入荷・市況見通しについて(東京青果株)
入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)